



上北だより

292号

平成26年10月31日
練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順康

「実りの季節」

校長 市川 順康

今年の新米も、刈り取りが終わる季節になりました。学校農園「くりりん」でも、豊かな実りの季節になりました。誰から教わったか、「お米一粒で、人間は、階段を一段登れる」という話を聞いたことがあります。また、「昔の「石高」は、その領地で、領民が1年間食べる米と同じ量である」つまり、石高＝人口だったという説もあります。つまり、百万石は、百万人の人間が1年間、食べ物に困らず生活できるというわけです。お米の取れ高で、人間の栄養やカロリー、人口まで、ある程度わかるということは、いかに私たちにとって「米」の指標が、生活に結びついているかということがわかります。

さて、昨今、米よりもパン、パスタなど米以外の食べ物が多く食べられて、日本の米の消費量は、年々減り続けているそうです。多種多様な食文化があり、われわれもその恩恵に預かっている一方、日本の食品の半分以上は、世界から輸入されたものです。私たちは年間 5500 万トンの食糧を輸入しながら、1800 万トンも捨てています。食糧の廃棄率では、世界一の消費大国、アメリカを上回り、廃棄量は、世界の食料援助総量 470 万トン(WFP)をはるかに上回り、3000 万人分(途上国の 5000 万人分)の年間食料に匹敵しています。そして、日本の食品廃棄の、実に半分以上にあたる 1000 万トンが、家庭から捨てられています。この家庭からでる残飯の総額は、日本全体で年間 11 兆円(旧科学技術庁「資源調査会第 123 回報告」より)。これは日本の農水産業の生産額とほぼ同額です。さらにその処理費用で、2 兆円が使われています。日本ほど、大量に食糧を輸入しながら、廃棄を続けている国はないのです。(ネットワーク「地球村」HPから引用)

「くりりん」で収穫された「米」の学習が、食料の学習に結びつき、その学びがさらに広がって、子供たちの未来の食生活を考えるきっかけになればよいと思いますが、大人もこの現状をしっかりと認識し、社会の中で、いろいろな立場から、考えていかなければならない問題だと思えます。米の一粒の話が、大人にとっても、大きな、そして大事な学習になります。子供たちの成長「実り」のためにできることを考えて、身近なところから、学びを生かしていかなければならないと考えます。子供たちの実りを、大人たちも支えて、さらに豊かになるような学び合いを目指していくことが大切です。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

11月の行事予定

- 3日(月) 文化の日
- 4日(火) 避難訓練
- 5日(水) 安全指導 移動教室前日検診<5年>
スーパー見学<3年>
- 6日(木) 移動教室始(岩井)<5年>
- 7日(金) 文化発表会参観<みつば>
- 8日(土) 移動教室終
- 10日(月) 委員会 お話会<2年・みつば>
- 11日(火) 3時間授業 **下校12:45**
(就学時健康診断のため)
- 13日(木) クリーン運動
- 14日(金) 合同運動会<みつば>

- 17日(月) クラブ
- 18日(火) 4時間授業 (校区别協議会のため)
- 19日(水) 地区班下校
- 21日(金) 4時間授業
- 24日(月) 振替休日
- 25日(火) 4時間授業 敬老館交流<3年>
- 27日(木) 4時間授業
- 28日(金) 4時間授業

- ※ 個人面談 11月21日(金)
- 25日(火)
- 27日(木)
- 28日(金)
- 12月 2日(火)

